

株主メモ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	
期 末 配 当	3月31日
中 間 配 当	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上 場 証 券 取 引 所	大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公 告 の 方 法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis-group.co.jp/ir/e-koukoku/index.html （ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

○ 株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



● 割当基準日 9月末日

● 優待内容

100株以上1,000株未満所有の株主様
お米券3kgを贈呈いたします。

1,000株以上10,000株未満所有の株主様
お米券5kgを贈呈いたします。

10,000株以上所有の株主様
お米券10kgを贈呈いたします。



株式会社エイジス

〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

第36期 報 告 書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

売場の生産性を高める戦略的アウトソーシング



株式会社エイジス

証券コード：4659

エイジスグループの使命

エイジスグループは、チェーンストアをサポートすることによって社会貢献する企業です。

経営基本方針

私共の事業目的は、正確さを犠牲にすることなく、
効率の良い棚卸サービスで、
自信をもった「棚卸報告」を提供し、
お客様の経営判断に重要な役割を果たすことです。

エイジスグループは、実地棚卸サービスなどのリテイルサポートサービスを提供することにより、チェーンストアをサポートしていくことで社会貢献をしています。

それと同時にエイジスグループは、「人」を育成していく役割も担っています。

なぜなら、エイジスグループの仕事は、人がいて初めて成り立つ仕事だからです。どんなにテクノロジーが進化しても、人でなければできない仕事があります。その中のひとつが実地棚卸サービスであり、リテイルサポートサービスです。

人が資産の仕事ですから、エイジスグループは「人」を大切にし、「人」とともに成長し、さらなる社会貢献を目指します。

トップインタビュー

リテイルサポートサービスが黒字転換、
棚卸繁閑格差の是正に取り組み、
生産性のさらなる向上へ

代表取締役社長 齋藤昭生



当期の事業環境と経営成績についてお聞かせください。

当社グループの主要顧客であります流通小売業界は、一部に企業業績の改善が見られるものの、消費者の買い控えや低価格志向の強まり、業態、業種を超える競争や先行き不安により、厳しい経営環境が続いております。

このような市場環境の中、前期に引き続き当社グループが主業務とする棚卸サービスに対しても、コストダウン要請は厳しくなっています。また前期に計上した震災による臨時棚卸がなくなったことや、棚卸実施回数の減少により棚卸繁閑格差は広がっています。

この結果、当期の連結経営成績は、売上高は18,861百万円（前期比1.9%増）、営業利益は938百万円（前期比33.4%減）、経常利益は987百万円（前期比31.6%減）、当期純利益は431百万円（前期比29.5%減）となりました。



当期の主な取り組みとその成果をお聞かせください。

主力の国内棚卸サービスにおいては、前期に引き続き、「独自技術を身に付けたプロフェッショナル集団の構築」を目指し、品質向上に努めてまいりました。精度については当期も一定の成果が上がっております。当社基準によると2009年3月期を100とした場合、前期の精度は100.14、

当期の精度は100.15とさらに向上しています。売上面では、地域密着営業を行い顧客開拓を推進してまいりました。その結果、前期に計上した震災による臨時棚卸がなくなったことによる減収分を、新規顧客の開拓と既存顧客からの受注増でカバーし、当事業ではほぼ横ばいの売上高を確保することができました。業態別に見ますと、スーパーマーケットやホームセンターなどが減収、コンビニエンスストアやG.M.S.（※日本型大型総合スーパー）などで増収となっております。一方利益面では、棚卸繁閑格差が拡大したことから新規採用者が増え、結果として棚卸経験者の





比率が低下、これが生産性の低下を招いたことなどにより、減益を余儀なくされました。

海外棚卸サービスにおいては、当期から新たに香港とタイの子会社2社が連結対象に加わるなど18.6%の増収となりましたが、利益面ではまだ多くの子会社が創業赤字を計上する状況にあるため、セグメント損失を計上しています。

リテイルサポートサービスにおいては、増収傾向が続いており13.0%の増収となり、利益面でも新システムの導入による作業効率の向上などから、ようやくセグメント利益

が黒字転換を果たしました。



今後の成長戦略をお聞かせください。

アベノミクスによる景気好転への期待感が高まっていますが、一般消費者の消費マインドが大幅に好転するには今しばらく時間を要するとみており、流通小売業界の企業間競争はますます厳しくなることが予想されます。このような現状認識の下、当社グループは現在、2016年3月期を最終年度とした中期計画を推進中です。この中期計画では、アジアにおけるエイジスブランドの確立を目指しています。中期計画においては国内・海外それぞれのマーケットで、棚卸サービスやリテイルサポートサービスを複合的に強化していくことを基本戦略としています。

各事業の具体的な戦略としては、主力の国内棚卸サービスについては、棚卸閑散期の業容を拡大し、棚卸経験者比率を向上させること等で収益改善を図ってまいります。棚卸という作業の特性上、第2四半期と第4四半期に業務が集中してしまうことが避けられません。この繁閑格差の拡大が当期決算においても減益の大きな要因となっており、何とかこの格差を少なくしていくことが重要な課題と

なっています。この解決に向けて、リテイルサポートサービスなどにより閑散期業務を拡大することや循環棚卸の推進により、棚卸繁閑格差の是正に努めてまいります。また棚卸経験者比率向上のためにグループ間の人材を有効活用してまいります。さらに棚卸作業を効率化させるハードやソフトのシステム開発の取り組みを進め、収益性の改善に努めてまいります。繁閑格差を是正することは、単に収益性の改善につながるだけではなく、閑散期に流出してしまっていた人材を内部に定着させ、棚卸経験者比率を高めるという効果もあります。これによって「棚卸のプロ集団」としての当社グループの優位性をさらに高めることができると考えています。

海外棚卸サービスについては、多くの日系流通小売企業が積極的な海外進出計画を公表していることもあり、今後市場が急速に拡大するとみられています。このトレンドに早くから注目してきた当社グループでは、売上高も着実に増加してきています。今後も現地の市場に合ったきめ細かい施策を確実に実行することで、2015年3月期の当事業黒字化を目指します。

リテイルサポートサービスについては、エイジス本体が抱える優良な顧客資産に対して営業活動を展開することにより、業容拡大を図っていきます。



2014年3月期の事業計画についてお聞かせください。

国内棚卸サービスについては、精度と生産性の向上に向けた取り組みを引き続き展開します。また、社内システムの刷新や「業務改善推進室」を新設するなど、間接部門のスリム化によるコストダウンも推進する計画です。

海外棚卸サービスについては、韓国で事業所の再編などを行って管理コストを見直し、3期ぶりの黒字化を見込むほか、その他各国でも引き続き積極的な営業活動を展開し赤字幅の縮小を目指します。

リテイルサポートサービスについては、エイジス本体に

「リテイルサポート企画開発本部」「リテイルサポート営業部」を新設し、リテイルサポートサービスの営業体制を大幅に強化いたします。それによりグループ内の顧客資産を有効活用し、棚卸からリテイルサポートサービスまでワンストップのサービスを提供してまいります。

2014年3月期の通期連結業績予想としましては、売上高は19,877百万円(当期比5.4%増)、営業利益は1,328百万円(当期比41.5%増)、経常利益は1,350百万円(当期比36.7%増)、当期純利益は744百万円(当期比72.6%増)を見込んでいます。



最後に、株主様へのメッセージをお願いします。

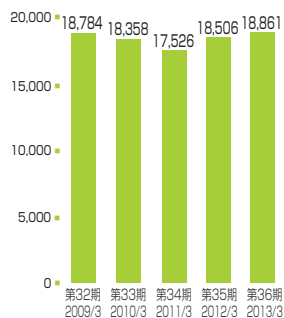
当社グループは株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留保を勘案し安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。このような方針に基づき、当期の配当金につきましては、1株当たり期末配当45円とさせていただきます。

国内景況の好転への期待感が高まっておりますが、流通小売業界の厳しい生存競争は今後もますます過熱する見通しです。流通小売業界からのハイレベルの要請に応えながら適正な収益を確保し、なおかつ成長を続けていくことは容易ではありません。しかし、今後も当社グループはチェーンストア各社のローコストオペレーションを支援し、社会に貢献することを目指してまいります。

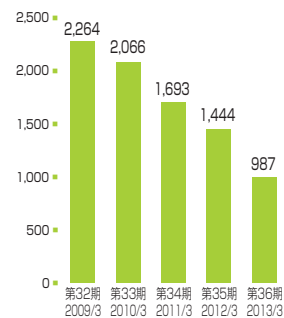
当社グループは今、海外棚卸サービスおよびリテイルサポートサービスの次なる成長の柱が着実に育ってきております。国内棚卸サービス業界で約8割の高いシェアを占める当社グループですが、その地位に安住することなく、さらなる成長を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、当社グループの取り組みを是非ご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

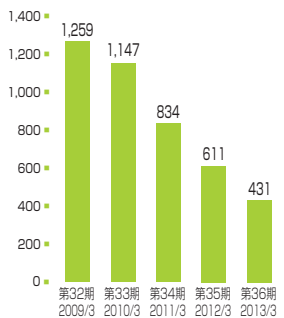
連結売上高
(単位：百万円)



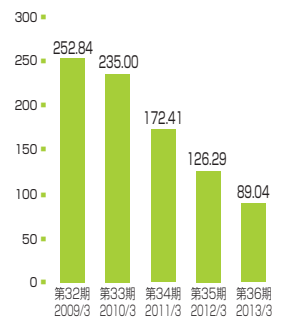
連結経常利益
(単位：百万円)



連結当期純利益
(単位：百万円)



連結1株当たり当期純利益
(単位：円)



業績サマリー

売上高
18,861 百万円（前期比1.9%増）

営業利益
938 百万円（前期比33.4%減）

経常利益
987 百万円（前期比31.6%減）

当期純利益
431 百万円（前期比29.5%減）

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要等により一部で持ち直しが見られるものの、欧米の財政問題、中国経済の成長鈍化等から、先行き不透明な状況で推移いたしました。政権交代後の経済政策により円高是正、株価回復の動きはありますが、実体経済への波及までには至っておりません。

当社グループの主要顧客であります流通小売業界においては、一部に企業業績の改善も見られるものの、消費者の買い控えや低価格志向の強まり、流通小売業界全体での業態、業種を超える競争や先行き不安により、厳しい経営環境が続いております。一方でアジアに進出を加速する企業も多くなってきております。

このような状況の中、当社グループは、国内棚卸サービスの収益性向上と、海外棚卸サービスおよびリテイルサポートサービスの業容拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高18,861百万円（前期比1.9%増）、営業利益938百万円（前期比33.4%減）、経常利益987百万円（前期比31.6%減）、当期純利益431百万円（前期比29.5%減）となりました。

国内棚卸サービス

売上高 >> **16,148** 百万円
セグメント利益 >> **1,163** 百万円

国内棚卸サービスにおいては、前期に引き続き「独自技術を身に付けたプロフェッショナル集団の構築」を目指し、品質向上に努めてまいりました。売上面では、地域密着営業を行い顧客開拓を推進してまいりました。その結果、前期に計上した震災の影響による臨時棚卸がなくなったことによる減収分を、新規顧客の開拓および既存顧客の受注増でカバーし増収になりました。一方、利益面では棚卸繁閑格差が拡大したことにより新規採用者が増え、生産性が悪化したこと等により減益となりました。

国内棚卸受託収入

棚卸サービスの売上高は前期比0.3%減の15,849百万円となりました。業態別の内訳は下記のとおりです。

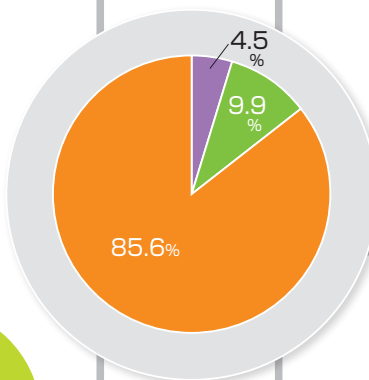
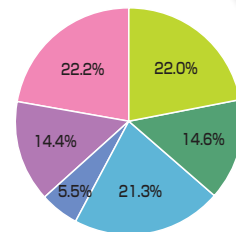
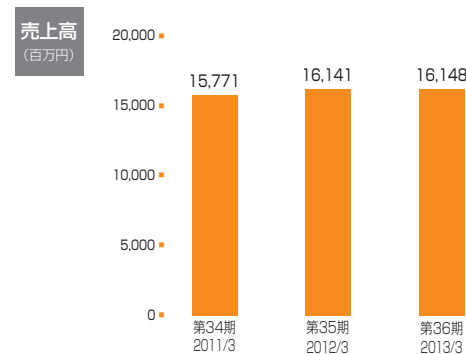
国内棚卸受託収入の業態別売上高（構成比）

■ コンビニエンスストア 売上高 >> 3,491 百万円
■ スーパーマーケット 売上高 >> 2,319 百万円
■ ホームセンター・ドラッグストア・ディスカウントストア 売上高 >> 3,375 百万円
■ 書店 売上高 >> 865 百万円
■ G.M.S.* 売上高 >> 2,282 百万円
■ その他 売上高 >> 3,514 百万円

* G.M.S. (General Merchandise Store)
大衆実用品のうち、新機能開発品主力の総合店。いわゆる日本型大型総合スーパーであります。

その他の流通業周辺サービス

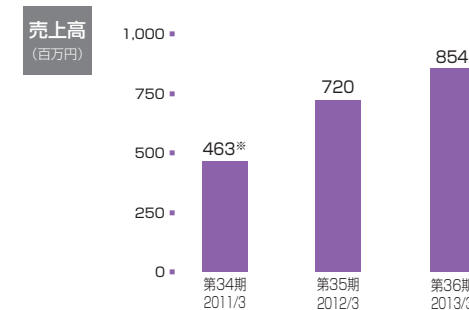
新規顧客の受注により、売上高は前期比34.2%増の166百万円となりました。



海外棚卸サービス

売上高 >> **854** 百万円
セグメント損失 >> **251** 百万円

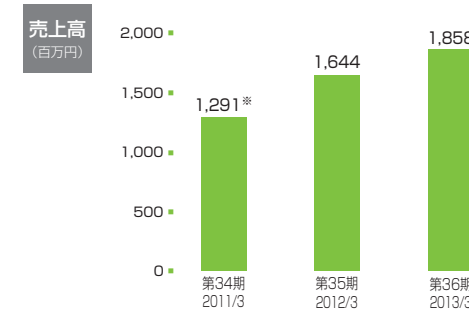
海外棚卸サービスにおいては、当連結会計年度より新規連結したAJIS (HONG KONG) CO., LIMITEDおよびAJIS (THAILAND) COMPANY LIMITEDの2社を含め、売上増加基調で推移しておりますが、利益面では多くの子会社が創業赤字を計上する状況にあります。売上高は854百万円（前期比18.6%増）、セグメント損失は251百万円（前期より180百万円の損失増加）となりました。



リテイルサポートサービス

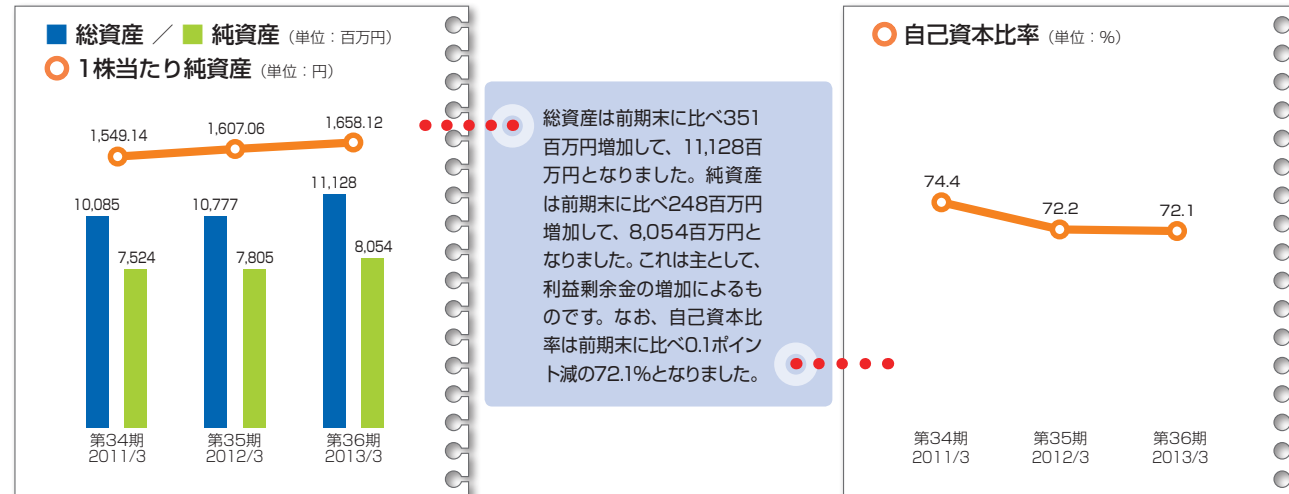
売上高 >> **1,858** 百万円
セグメント利益 >> **0** 百万円

リテイルサポートサービスにおいては、増収傾向が続いております。利益面では新システム導入による作業効率の向上等によりセグメント利益は黒字化いたしました。売上高は1,858百万円（前期比13.0%増）、セグメント利益は0百万円（前期は46百万円の損失）となりました。

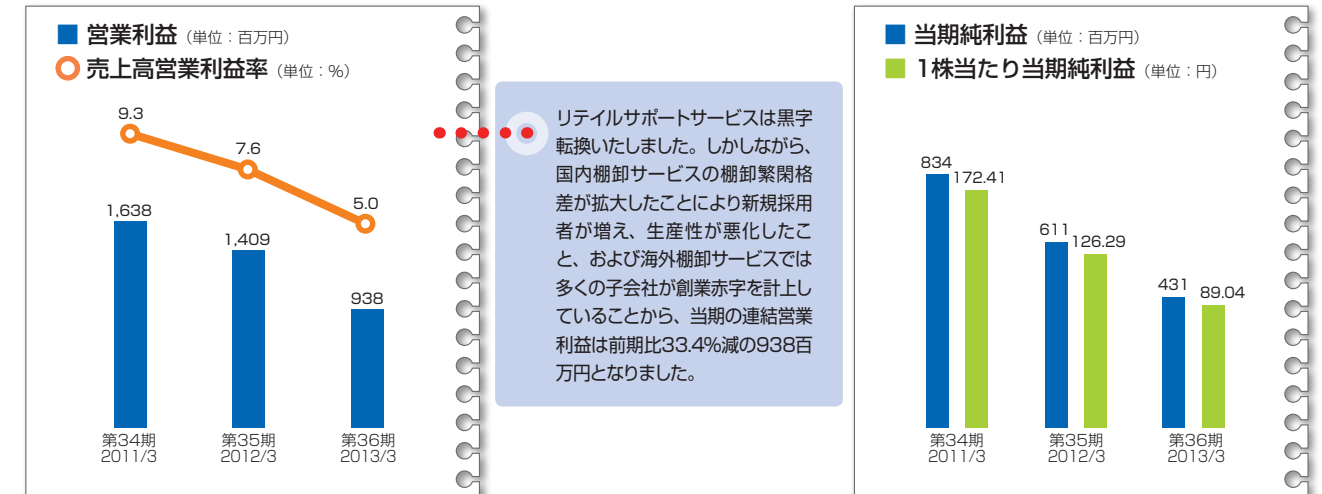


※ 第35期より、「その他」に含まれていた「海外棚卸サービス」と「リテイルサポートサービス」について、投資家に対する積極的開示の観点から報告セグメントとして記載する方法に変更しております。なお、第34期は、変更後の報告セグメントに基づき作成しております。

財 政 面

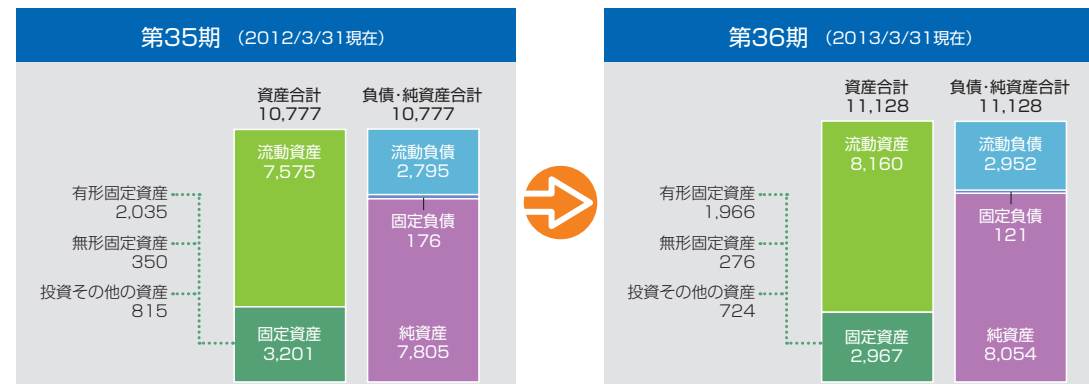


収 益 面



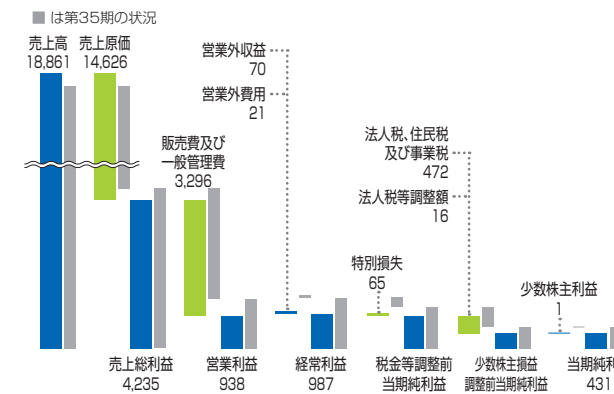
貸借対照表の概要

(単位：百万円)



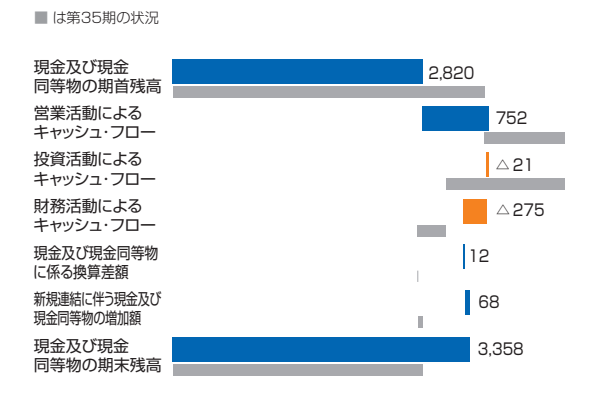
損益計算書の概要

(単位：百万円)



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



株式の状況（2013年3月31日現在）

発行可能株式総数 14,000,000株
発行済株式の総数 5,385,600株
株主数 3,299名

大株主（上位10名）（2013年3月31日現在）

株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
有限会社斉藤ホールディングス	1,211,900	22.50
齋藤昭生	790,180	14.67
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライズド ストック ファンド	538,500	10.00
齋藤茂男	203,900	3.79
小林美保子	191,800	3.56
齋藤泰範	127,670	2.37
清水昭順	90,170	1.67
エイジス従業員持株会	84,256	1.56
野村信託銀行株式会社（投信口）	70,100	1.30
資産管理サービス信託銀行株式会社 （証券投資信託口）	60,000	1.11

（注）当社は、自己株式543,970株を保有しておりますが、上記大株主から除外して
おります。

利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重点課題と位置付けており、
長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留
保を勘案し、安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。

当期の配当につきましては、1株当たり期末配当45円とさせていただきます
した。一方、内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化
に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・
オペレーション体制を強化するために有効投資してまいりたいと考えており
ます。

所有者別分布状況（2013年3月31日現在）

■ 金融機関 251,080株（4.66%）
■ 金融商品取引業者 68,511株（1.27%）
■ その他の法人 1,370,070株（25.44%）
■ 外国法人等 728,400株（13.53%）
■ 個人・その他 2,423,569株（45.00%）
■ 自己名義株式 543,970株（10.10%）

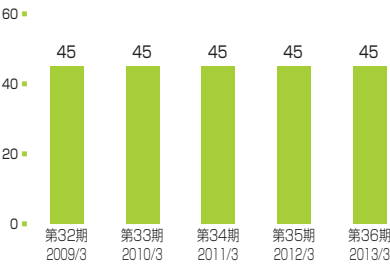


所有株数別分布状況（2013年3月31日現在）

■ 1単元未満 3,958株（0.07%）
■ 1単元以上 345,641株（6.42%）
■ 5単元以上 95,650株（1.77%）
■ 10単元以上 375,920株（6.98%）
■ 50単元以上 103,685株（1.93%）
■ 100単元以上 489,400株（9.09%）
■ 500単元以上 363,426株（6.75%）
■ 1,000単元以上 523,370株（9.72%）
■ 5,000単元以上 3,084,550株（57.27%）



1株当たりの配当金の推移（単位：円）



会社概要（2013年3月31日現在）

会 社 名 株式会社エイジス
（英文名 AJIS CO., LTD.）
資 本 金 475百万円
設 立 年 月 日 1978年5月23日
従 業 員 数 264名（582名 ※連結）
営 業 拠 点 直営46ヵ所 FC35ヵ所
（合計81ヵ所）
業 務 内 容 ● 実地棚卸サービス
● その他の流通業周辺サービス
主要取引銀行 ● 三菱東京UFJ銀行
● 千葉銀行
● みずほ銀行
● 三井住友銀行
ホームページ <http://www.ajis-group.co.jp/>

取締役および監査役（2013年6月27日現在）

代表取締役社長 齋 藤 昭 生
常 務 取 締 役 近 江 元
常 務 取 締 役 高 橋 一 人
取 締 役 竹之下 正 夫
取 締 役 戸 丸 富志夫
取 締 役 山 根 洋 行
取 締 役 手 塚 勝 也
取 締 役 平 石 智 之
取 締 役 福 田 久 也
取 締 役 森 和 弘 ※1
常 勤 監 査 役 鈴 木 行 雄
常 勤 監 査 役 増 子 泰 由 ※2
監 査 役 船 橋 茂 紀 ※2

※1 森 和弘は、会社法に定める社外取締役であります。

※2 増子 泰由および船橋 茂紀は、会社法に定める社外監査役であります。

主要取引先（2013年3月31日現在）

コンビニエンスストア サークルKサンクス スリーエフ セーブオン G.M.S./スーパーマーケット アルビス イオンリテール イオンキミサワ イズミ イズミヤ イトーヨーカ堂 いなげや ウオロク オークワ オオセキ オギノ Olympic カスミ 百貨店 大丸松坂屋百貨店 高島屋 天満屋 ホームセンター/ドラッグストア/ディスカунストア ウェルパーク カインズ カワチ薬品 クスリのアオキ クリエイト エス・ディー ケーヨー ゲンキー コーナン商事 コクミン 書店 あおい書店 旭屋書店 ワイルドワンガードコーポレーション 勝木書店 カルチュア・コンビニエンス・クラブ 紀伊國屋書店 アパレル エディー・パウアー・ジャパン ギャップジャパン クリスチャン ディオール ゴールドウィン ザラ・ジャパン その他 赤ちゃん本舗 アディダス ジャパン エディオン キャンドウ 九九プラス コーチ・ジャパン コジマ 上新電機			セブン-イレブン・ジャパン デイリーヤマザキ ファミリーマート 関西スーパーマーケット コープこうべ コープネット事業連合 サミット サンセブン 大黒天物産 東急ストア とりせん 長崎屋 原信カルスホールディングス パロー ベイシア 平和堂 東急百貨店 阪急阪神百貨店 松屋 サンデー サンドラッグ QFSコーポレーション 島忠 スギ薬局 セキチュー ダイユーエイト 千葉薬品 富士薬品 三省堂書店 三洋堂書店 JR東日本リテールネット ジュンク堂書店 文教堂 文真堂書店 ジョルジオ アルマーニジャパン 東京シャツ 西松屋チェーン バル ポイント ゼビオ セリア 大創産業 東急ハンズ ドン・キホーテ ニトリ 日本トイザらス ビックカメラ	ポブラ ミニストップ ローソン ベルク マックスバリュ各社 マルエツ 万代 みやぎ生協 ヤオコー ヤマザワ ヤマナカ ユーコープ事業連合 ユニバース ヨークベニマル ライフコーポレーション 丸井 三越伊勢丹ホールディングス PLANT ホームマック マツモトキヨシ ユタカファーマシー ユニリビング LIXILビバ ロイヤルホームセンター 丸善書店 宮脇書店 未来屋書店 有隣堂 リプロ ポロラルフローレン ユニクロ ライトオン ワークマン ワールド 藤久 メガススポーツ やまや 良品計画 ロフト ローソンHMVエンタテイメント
---	--	--	--	--

※ 敬称・法人格は省略させていただいております。 ※ 50音順